SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

III 留学生支援ボランティア

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010075

Ⅲ　留学生支援ボランティア

熊井　浩子／袴田　麻里

留学生支援ボランティアは平成14年度より活動が始まったが、28年度は12月現在で静岡キャンパス47名、浜松キャンパス59名、計106名となっている。静岡キャンパスでは、やや減少傾向にある。そのうち浜松は4名が留学生である。部局別登録者数は、以下の通りである。

年度	人文(社会科学)	教育	農	理	工	情報	合計
15年度	7	22	8	0	4	5	46
16年度	24	21	8	5	5	6	69
17年度	13	26	5	10	7	6	67
18年度	19	44	5	4	16	6	94
19年度	29	46	6	3	9	5	98
20年度	43	40	7	3	19	4	116
21年度	36	31	5	5	20	6	103
22年度	40	35	4	6	26	14	125
23年度	46	30＋2＝32	6＋1＝7	6＋2＝8	13＋5＝18	11	122
24年度	18	23	5＋1	5	20＋10	13	84＋11
25年度	39	23	4＋1	4	20＋9	12	103＋10
26年度	37＋1	24＋1	1＋1	4	23＋4	23	112＋7
27年度	28＋1	20	2＋1	6	23＋5	25＋1	104＋8
28年度	21	20	0	5＋1	26＋6	27	99＋7

＊＋の前が学部生、あとが大学院生である。総合科学技術研究科は専攻により集計。＋がないものは学部生のみ。

留学生支援の主な活動内容は以下の通りである。

1）日本語教育支援

国際交流センターで行われている日本語授業に参加し、留学生の日本語学習を支援する。具体的には、会話の相手、討論会での意見交換、異文化授業への参加、留学生発表会の見学などがある。その他、授業外に日本語の勉強のサポートや会話のパートナーになってもらう例もある。

2）生活支援

日本に慣れない留学生のために、日本の生活を紹介する。友人を紹介したり、街の中を案内したり、買い物を手伝ったりする。

3）日本文化紹介

日本に関係することで、得意なこと、好きなことを留学生に披露する。特に、茶道や書道、柔道や剣道、折り紙やあやとりなど、伝統的な日本文化を留学生に伝える。

４）イベントへの参加

国際交流センターで企画するイベントに主催者側または参加者側として参加する。

これらの支援活動は、留学生支援が必要となったり、交流活動があったりする場合、Eメールによって登録されたボランティア学生に直ちに連絡され、都合のつくボランティアが参加するという形をとっている。

静岡キャンパスでは、上記のような活動のほかに、例年通りサマースクール（6月下旬～7月上旬実施）で来日する留学生のために支援グループを募り、3週間にわたって交流活動を行った。毎年このサマースクールを経て、交換留学生として戻ってくる留学生もおり、ボランティアとの交流がその大きなきっかけとなるなど、非常に重要な活動となっている。

また、11月と5月にはボランティア学生と留学生との交流会が開催され、交流を深めた。この他にも、会話パートナーや校外学習や日本語授業に参加するなど、活発な交流が行われている。ただし、学内外での他の活動との日時のバッティング等もあり、活動によっては参加者が集まらないこともあった。新たな登録者獲得のための方策が必要であるといえる。

浜松キャンパスでは、留学生支援ボランティアが25年7月に同好会「ヴォラーレ」として活動を始めて以降、主として交流イベントの企画・参加が非常に活発に行われた。4月、10月の新入留学生歓迎会、バーベキューなど学生自身が企画し、交流を深める機会を作った。日本語学習支援は昨年度に引き続き少なかったが、工学部からの依頼により、平成27年度入学のABP学部生に対する補習（日本語、数学など）を、留学生支援ボランティアに登録する学生に委託して実施した。

このように徐々に留学生と日本人学生との交流活動は進んでいるが、昨年度と同様の課題として、英語力に自信がない日本人学生と日本語力が低い（ない）留学生の交流方法を挙げたい。平成18年に英語で学位取得可能な創造科学技術大学院が静岡・浜松キャンパスをまたいで開設され、日本語未習の留学生が増加した。加えて、平成27年からは総合科学技術研究科において、英語で学位が取得できるようになり、ますます日本語未習、日本語力が低い留学生が増えている。日本人学生は英語力に自信を持てないだけであって、必ずしも英語力が低いわけではない。きっかけが与えられれば十分に交流できると思われるので、もっともよいタイミングで働きかけを行いたいと思う。

今回も、この活動をきっかけとして留学に興味をもち、交換留学・ILUNO／VSCPなどの大学プログラムその他で留学する学生も多く、反対に、留学後に支援ボランティアに加わるケースもあった。28年度前期のABP副専攻（1・2年生のみ。ABP参照）の英語科目履修者が静岡キャンパスでは3名、浜松キャンパスでは2名いる。国際交流センターでも、この活動が次のステップへと結びつくよう、国際交流イベント・留学プログラム等の情報提供を積極的に行って支援している。